

授 業 科目名	法学政治学演習	※選 択	開講年次	2	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブ タイトル	法を通じて社会を見つめる	担当者	手塚 一郎			
講義概要	<p>【概要】 広い意味での法学をテーマとする教科書・参考書・資料（書籍・新聞記事など）を使って、私たちが暮らす社会をより深く知るための演習科目です。履修者にも、担当者の説明を聞くだけでなく様々な「トレーニング（音読、資料作成、発表、議論など）」をしてもらいます。</p> <p>【到達目標】 コミュニケーションやプレゼンテーションの基礎的な力を身につけること、より具体的には、授業で扱うテーマを素材に「他人の意見を聞いて理解し、自分の意見を伝えて理解してもらう」ことの重要性を感じ、そのための基礎的な力を身につけることが到達目標です。</p>					
履修条件	担当者による選抜に合格し、履修登録を許可された者であること。					
教科書・ 参考書	<p>【教科書】開講後、取り上げるテーマに応じて指示します。また、必要に応じて参考資料を配布します。</p> <p>【参考書】道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（1,050円/ISBN978-4-335-31312-7） ※他の参考書は授業中に必要に応じて紹介します。</p>					
授業内容	<p>1.各回の授業は以下の事柄を組み合わせることで展開されます。</p> <p>【基本事項の確認】 授業で扱うテーマの基本事項については必要に応じて教員が解説を行います。ただし、履修者の中から担当者を決め、事前に調べた内容を報告・説明してもらう場合もあります。</p> <p>【教科書などの輪読】 教科書などの資料を理解するための第一歩は「正確に読めること」です。「読めたつもり」の状態で終わらないように、音読などのトレーニングを行います。</p> <p>【発表と議論】 担当者を決め、様々な情報を調べて発表してもらう場合があります。発表後、他の受講者も一緒に発表内容に関する質疑・応答・議論を行います。</p> <p>2.具体的なテーマ 履修者の興味・関心も参考にしながら扱うテーマを決定する予定ですが、例えば「環境問題」「インターネット上の様々な問題」など、皆さんも報道などを通じて接したことがあるはずのテーマを、法学の視点から見つめます。</p>					
評価方法	授業中の発言・報告内容・レポート提出など、受講生の学習態度のすべてを評価対象として担当者が点数化を行います。なお、定期試験は実施しません。					
評価基準	演習科目の特性上、講義科目と比べて抽象的な基準とならざるを得ませんが、(1)他者に対して正確な情報伝達ができるようになればC評価、(2)正確な情報伝達とともに、自分の意見を能動的に発信できるようになればB評価、(3)それらの事柄をより一層分かりやすく行うとともに、他者の意見を正確に把握し、建設的な議論を展開できるようになればA評価とし、(1)に到達していなければD評価またはE評価とします。					
その他	遅刻・欠席・早退が度重なるなど学習態度に問題があると担当者が判断した場合、E評価（単位不認定）を宣告する場合があります。また、前期・後期それぞれ欠席5回以上で自動的にE評価となります。 ※Eカリキュラムの学生は選択必修科目					